



薬剤がドローンに乗って空を飛ぶ! 新時代の農業DXを目近で体感

ライブテックファーム徳島

阿南市椿町

SkyFarm®(スカイファーム)として農業DXを推進するワイズ技研(東京都)が、2022年11月に「ライブテックファーム徳島」とサテライトオフィスを開設。代表取締役の北田論史さんに取り組みや展望を尋ねた。

●“見える農業DX”の実践圃場の創出、“農業関係人口”の創出による地域活性化、“農業DX・農業関係人口”創出に関する情報発信の3点を通じて、農業DX構想の実現に貢献することを目指す北田さん。今、一番力を入れているのはドローン事業だ。ドローンを使って農業をすることの効率性、安全性、安定性を伝え、その普及を目指している。また、若者にとって魅力的で取り組みやすい農業事業環境が構築されることで、農業関係人口が増加し、農業地域社会全体が活性化されることを望んでいる。(坂上)

●ライブテックファーム徳島では、農業DXや農業関係人口の創出に関する情報発信や、スマート農業の実演を行っている。農業DXの中には、AIやIoTなどのデジタル技術を活用した新たな農業が含まれるが、言葉で聞いても伝わりづらい。そこで、実演を行うことで、目で見て知ることができる空間を作った。実際に目にしたのは、従来の農業では考えられない、ドローンを使った農薬散布。視覚的に体験することでイメージがしやすく、農業に対する興味関心が深まる。いち早くこの施策を考え、新しいビジネスモデルを開発した北田さんは、まさに次世代農業の体現者であると言える。(藤岡)

●お話を伺った北田さんは、数年前に神山町を訪れた際にドローンのことを学んだ。これをきっかけに、ドローンを活用したビジネスを考えつき、農業DX

を行うことになった。今回、実際にドローンを活用して農業を行っている様子を見学した。土地に水や肥料を撒く範囲をドローンに記憶させたら、その通りに動いており、最先端技術の素晴らしさを実感した。(島田)

●新時代の農業、訪れる。私たちが向かったのは、阿南市椿町という人口は約1500人という小さな町だ。ここで、農業の最先端に行く事業がおこなわれている。それは、テクノロジーと農業を組み合わせるDX農業だ。経験と勘だけに頼るのではなく、技術とデータを活用することで、作業効率が向上し、作物の味もおいしくなるのだというから驚きである。DX農業の目的は「農



農薬や肥料を載せたドローンが圃場の上を飛ぶ。



端の農業を発信していけるのではないかと期待を抱いた。(石原)

業関係人口”の増加を目指すこと。代表の北田さんは「人口減少が止まらないが、住まなくてもこの地域に関わる人を増やしたい」と語っていた。では、実際にこれまでの農業とは何が違うのか、実演していただいた。農薬を載せたドローンが畑に飛び立つ姿を見て、次世代の農業を思い浮かべることができた。今後、徳島から最先

世界に一つだけのオリジナルトートバッグづくり

ふれあいの里さかもと 草木染め体験

勝浦町

勝浦町の坂本地区にある農村体験型宿泊施設。週末限定のランチやさまざまな体験プログラムを楽しめる。

●野山で採った草木を原料にTシャツやカバンなどを染めていく草木染め体験ができる。色は草木によって異なり、選択肢はさまざま。アルカリ処理をすると、染めた直後とは違う色に変化する。布を乾燥させている間も徐々に色が変わっていくので、見ていておもしろい。(坂上)

●ふれあいの里さかもとは、1999年3月に閉校となった坂本小学校をリニューアルした施設。

現在では、農村体験型宿泊施設として活用されている。草木染め体験では、草木から抽出した色素でエコバッグを自分好みに染められる。真っ白のキャンバスに色を塗っていく感覚だった。(石原)

●徳島県に移住した赤川さんが教えてくれた草木染め体験。染色液の濃淡によって色合いがまったく違うので、自分のオリジナルのバッグが作成できて楽しかった。(島田)



草木染めをレクチャーしてくれた赤川さん(一番右)と一緒に。

約1万体の招き猫が出迎える“猫神さま”へ

お松大権現

阿南市加茂町

勝負ごとの神様として知られる神社。受験シーズンには多くの参拝者で賑わう。

●猫好き必見のスポット。鳥居前に巨大な招き猫、本堂のご本尊を安置している場所に無数の招き猫…境内のいたるところに招き猫が奉納されている。ほかにも隠れ猫が点在しているので、探してみるのもまた一興である。総数1万体制といわれる招き猫はたくさんの人の願い事を叶えてきたそう。毎日の感謝の気持ちを忘れないためにも、猫探しの前には拝殿での参拝を忘れずに。(藤岡)

●通称“猫神さま”。境内に奉納されている約1万体の招き猫はとても可愛らしく癒される。招き猫のデザインのお守りやペット専用のおみくじもあり。猫好きの方はぜひ訪れて。(島田)



毎年恒例、迫力満点のビッグひな祭り

人形文化交流館

勝浦町

今年で35回目を迎える「ビッグひな祭り」の舞台。全国の家庭から集まった雛人形により、豪華絢爛に彩られる。

●1988年の春から毎年開催されているビッグひな祭り。会場中央にそびえ立つひな壇の高さは約8メートルにも達し、展示されている雛人形は3万体を越えている。人口5000人ほどの勝浦町に、県内外から多くの観光客が訪れる。ビッグひな祭りはグローバルに発展し、リオ五輪や東京五輪でもひな人形の展示が実現した。また、町内の日本最古級の地層から恐竜化石

が発見されたことを機に、恐竜モニユメントの展示を加えた。(坂上)

●勝浦町にある人形文化交流館は、雛人形に関する史料館で、道の駅ひなの里かつうらに隣接。毎年春のビッグひな祭りの会場となっている。今回、開催約1カ月前の準備会場を訪ねた。会場全体に3万体制以上の雛人形が並んでおり、その迫りに圧倒された。会期は3月31日(金)まで。ぜひこの圧倒的迫力を体験してほしい。また、会期中はさまざまなイベントが企画されているので楽しめるだろう。(石原)



Student reporter



阿南市・勝浦町取材した学生記者

藤岡来斗(徳島大学大学院・創成科学研究科理工学専攻1年)、坂上夏未(徳島商業高1年)、島田優希(徳島商業高2年)、石原優人(鳴門教育大学大学院・学校教育研究科グローバル教育コース1年)



HP「住んでみて徳島で!」にて、学生記者のリポート全文と写真を掲載。



動画はYouTube 徳島県チャンネルにて公開予定! 当日の様子や各スポットの紹介を動画でチェックできる。